歴史総合-DX

 **1953年①（昭和28）テレビの時代始まる**

日本のテレビ放送史は、1926年（大正15）に電子式テレビ受像機を研究する高柳健次郎（日本のテレビの父）が世界で初めて「イ」の文字をテレビ受像機に映すことに成功したことに始まり、その後、1936年（昭和11）に4年後の東京五輪に向けての開発に拍車がかかったが、日中戦争の勃発で1938年（昭和13）に五輪は自主返上された、翌1939年（昭和14）に日本放送協会（NHKの前身）が、東京・日本橋の三越デパート本店にて「テレビジョン大公開」を実施、日本初のテレビドラマ「夕餉前」（ゆうげまえ）の14分の実験放送に成功したが、太平洋戦争で開発はストップした。戦後にテレビ先進国だったアメリカから最新技術が伝わり、民間ラジオ放送が始まった1951年（昭和26）、その6月3日にNHKがテレビの実験放送を開始した。10月に民放局「日本テレビ放送網」が放送免許を申請、続いて実験放送中のNHKも免許申請を行い、テレビ放送が具体的なスケジュールにのぼった。翌1952年（昭和27）3月に6メガサイクルのアメリカ方式採用が公布され、1953年（昭和28）2月1日から東京地区でテレビの本放送がNHK東京放送局（JOAK）でスタートした。半年後の8月28日には、先に免許申請した日本テレビ放送網（NTV)が本放送を開始、また、12月の大晦日、従来は正月番組だったNHKラジオの4度目の「紅白歌試合」（今の紅白歌合戦）の日程を繰り上げて大晦日に日本劇場を会場に「NHK第四回紅白歌合戦」が公開生番組として放送された。日本に「テレビ時代」が到来したことで産業界はラジオに加えてのテレビ生産で活気づき、「マスコミニュケーション」の新語が誕生した。翌1954年（昭和29）2月には力道山のプロレス中継が始まり、洗濯機・冷蔵庫と並んで掃除機が「三種の神器」と呼ばれていたが、「庶民には高嶺の花」の白黒テレビがライバル商品として普及の第一歩を踏み出した。